












みんなでやろうカメムシ防除

防除は地域ぐるみで行いましょう!
被害が多いと収入減で損します!!

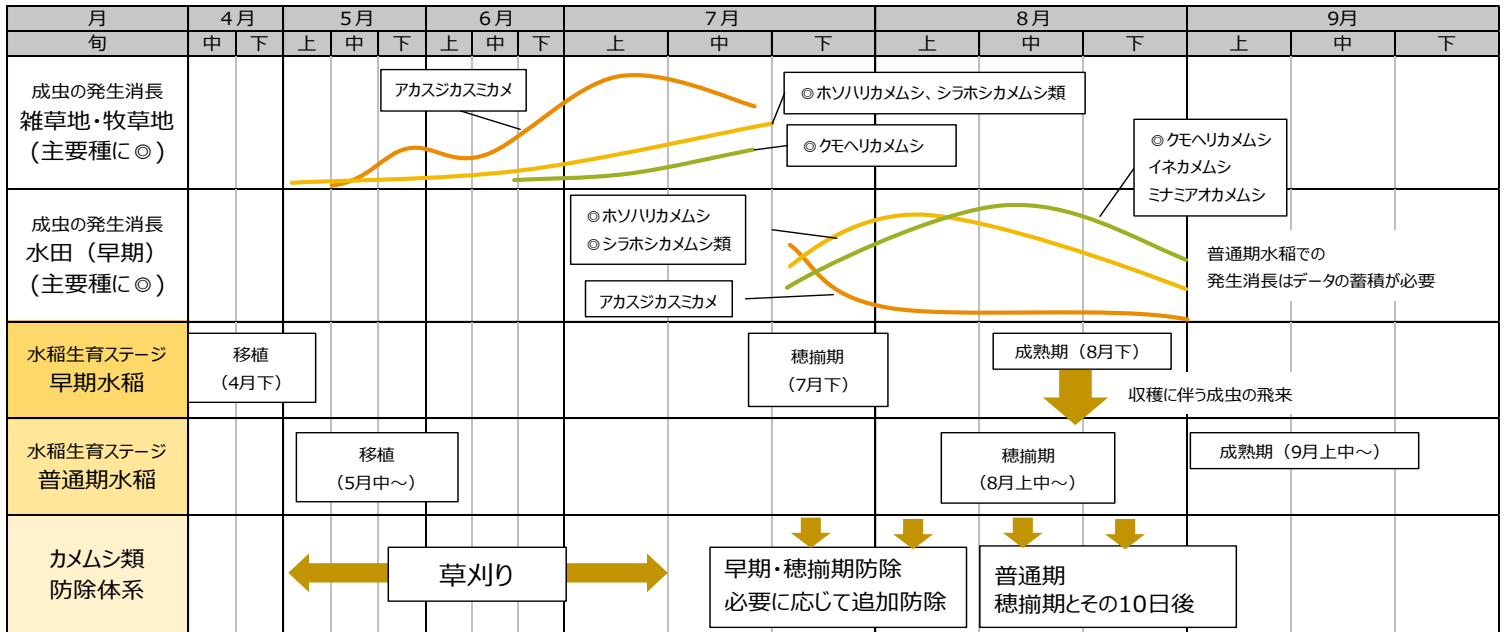
【主要な斑点米カメムシの特徴と生態】

【画像】	【特徴】	【生態】
 <p>クモヘリカメムシ</p>	<ul style="list-style-type: none"> 飛翔能力が高い 稲への選好性が高く、水田内でも増殖する。 成虫、幼虫とも斑点米生産能力は高い。 	<ul style="list-style-type: none"> 成虫の体長は15mm前後で緑褐色。活発に飛翔し、出穂にあわせて水田全面に飛来する。 杉、ひのきなどの林内で成虫越冬する。越冬成虫は、雑草地に飛来して増殖後、水田に侵入する。年2~3回発生する。 出穂期以降のイネに対する選好性が高く、水田内でよく増殖する。 斑点米は水田全面で発生し、早生品種は集中加害を受けやすい。
 <p>ホソハリカメムシ</p>	<ul style="list-style-type: none"> 飛翔能力が高い。 稲への選好性が高く、水田内でも増殖する。 成虫、幼虫とも斑点米生産能力は高く、被害痕は大型になる。 	<ul style="list-style-type: none"> 成虫の体長は10mm前後で茶褐色。やや大型で、活発に飛翔する。 水田周辺の藪地などで成虫越冬する。発生回数は年2~3回。 出穂期に水田に飛来し、水田内で増殖する。 発生地は比較的限定され、常発しやすい。 早生品種で被害が大きい。
 <p>ミナミアオカメムシ</p>	<ul style="list-style-type: none"> 飛翔能力が高い 比較的稲を好むが、多食性で麦や大豆も加害する。 斑点米生産能力が非常に高い。 	<ul style="list-style-type: none"> 成虫の体長は14mm前後で緑色。やや大型で、活発に飛翔する。 落ち葉の下などの地表面や常緑樹の樹幹内部で成虫越冬する。発生回数は年3~4回。 比較的稲を好むが、麦や大豆、野菜類や果樹類の果実も加害するため、水田以外の発生にも注意が必要。
 <p>シラホシカメムシ類</p>	<ul style="list-style-type: none"> 飛翔能力は低く、歩行で水田に侵入する。 多食性で雑草や稲の種子を好む。 斑点米生産能力は高く、被害痕は鮮明。 	<ul style="list-style-type: none"> オオゲシホシカメムシは富山以北の北陸・東北に、トゲシホシカメムシ、シラホシカメムシは北陸以南の平坦地に生息する。 成虫の体長は4.5~7mm（トゲシホシカメムシ）でこげ茶色。背面に1対の白点がある。 成虫または幼虫で水田近くの雑草地で越冬し、年2~3回発生する。 歩行で水田に侵入するため、斑点米の発生は水田周縁部（がく縁）に多い。 発生は中山間地で多く、種子をつける植物（オオバコ、タデ科植物、イネ科雑草）の多い場所で発生が多い。
 <p>イネカメムシ</p>	<ul style="list-style-type: none"> 飛翔力は高い。 水田中央部まで飛翔して侵入する。 斑点米生産能力が非常に高い。 	<ul style="list-style-type: none"> 成虫の体長は約12mm。体色は黄褐色。 雑木林の落ち葉の下やススキなどの株間で成虫越冬する。4月頃から活動を開始し、年1~2回発生する。 一時、ほとんど発生が見られないほど減少したが、近年、一部地域で多発するようになった。 水田で恒常的に問題となることは少ないが、斑点米生産能力極めて高いため、発生が見られた場合は注意が必要。
 <p>アカスジカスミカメ</p>	<ul style="list-style-type: none"> 飛翔力は弱く、長距離移動はしないが、水田中央部まで飛翔して侵入できる。 イネ科植物の種子を好む。 斑点米生産能力は高くないが、発生量が多い時や割れ糶に対しては実害が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 成虫の体長は5mm程度で、背面が赤い筋状に見える。 イネ科植物のみに寄生し、その穎果内に産卵するが、稲には産卵できず、稲で繁殖することはできない。 近年、水田内のホタルイの穂にも産卵することがわかった。ノビエも好むので、本種の防除には水田内の除草も重要。 穎果内に産下された卵で越冬し、年4~5回発生する。 小型種であるため、稲の登熟初期には頂部の開口部から、中~後期には内穎と外穎の間隙間（特に割れ糶）からしか吸汁できない。

カメムシ被害の発生しやすい条件

1. 夏の降水量が少ない。梅雨明けが早い。→高温少雨条件でカメムシの活動は活発となる。また、餌となる雑草の生育も旺盛となり、発生が増える。
2. 暖冬の年は越冬量が多い。→特に、暖冬の年は防除を徹底する。
3. 周辺ほ場より出穂が早い。または遅い。→被害が集中する。できるだけ作期をまわりと揃える。
4. 周辺に休耕田が多い。→カメムシの餌となるイネ科の雑草が多く、繁殖地となる。
5. 水田内にイネ科雑草が多い。→稲の穂が出る前に出穂する個体があり、早くから水田内にカメムシを呼び込むことになる。

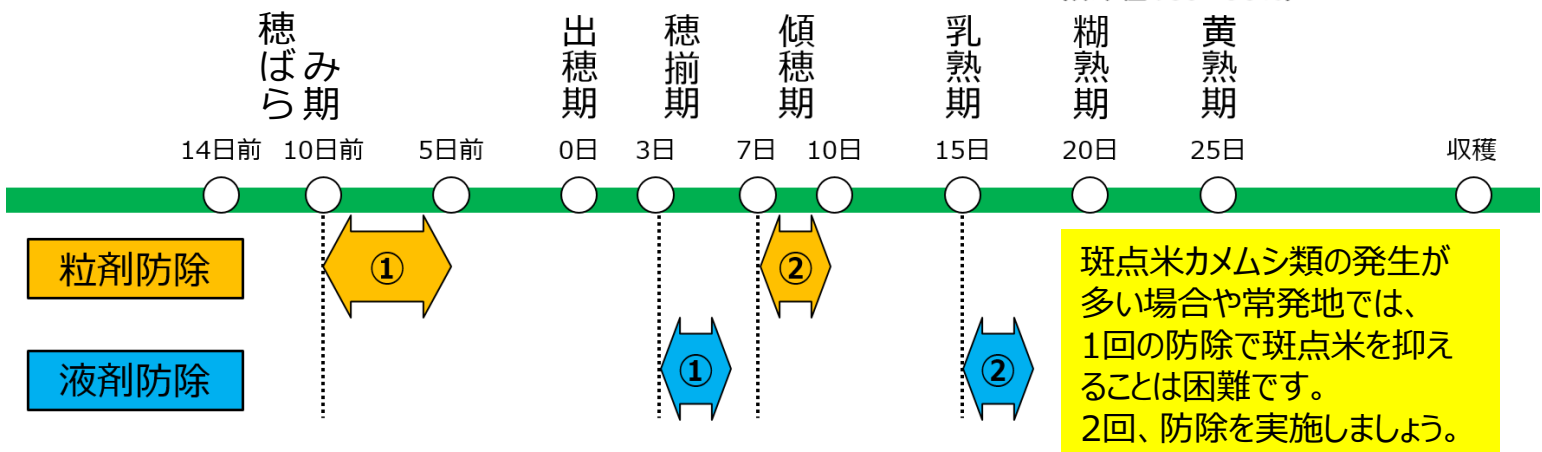
三重県の水田におけるカメムシ類の発生消長と防除体系



用語解説

- 出穂期 全茎(穂)数の40～50%が出穂した日(株単位の40～50%)
- 穂揃期 全茎(穂)数の80～90%が出穂した日(株単位の80～90%)

カメムシ防除スケジュール



防除は地域ぐるみで行うと効果的です。

草刈りの徹底

…畦畔、農道、休耕田などの除草対策をこまめに行う。雑草の穂が出る前には草刈りを行う。出穂直前の草刈りを避け、出穂15～10日前に実施する。地域一斉に行うと効果的。

薬剤による防除

…発生が多い場合は1回では完全に防除しきれないため、できれば穂揃期と乳熟期(1回目防除の7～10日後)の2回防除を行う。地域一斉に行うと効果的。栽培上や作業上、1回しか防除できない場合は、穂揃期を重点に行う。